

新型コロナウイルス感染症対策による学校の臨時休業期間における先生方への支援として、メール・マガジン「スクラム」の臨時号を発行いたします。家庭学習課題の作成や学校再開後の教育活動の実施に向けて、参考にいただければと思います。

（東京都教育委員会ホームページアドレス <https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/>）



1 年生が小学校生活を楽しくスタートするために

学校再開の前に、スタートカリキュラムの見直しをしましょう

今年度の新1年生は、臨時休業の影響で、例年の5歳児が2～3月に経験する内容を経験しないまま入学してきた児童が多数います。

そのため、次の3点に留意しながら、スタートカリキュラムの内容を見直すが必要になります。

- ① 幼児期の発達や学びを土台とし、児童が興味・関心をもったことを一人一人のペースで追及していけるよう配慮する。
- ② ゆったりとした時間の流れの中で、小学校での学習や生活に少しずつ慣れていけるように配慮する。
- ③ 見直しを行ったスタートカリキュラムについて、就学前施設の保育者との意見交換を行う。

【具体的な取組の例】

- 就学前施設から送付された指導要録等を改めて確認しましょう

就学前施設では、その幼児のよさや得意なこと、成長の過程を指導要録等の「指導の記録」や「保育の記録」に記載しています。入学してきた児童一人一人がどのような経験をしてきたのかを把握することが重要です。

【例】 就学前施設から送付された指導要録等をよく読み、不明な点や更に聞いておきたい点、その児童のよさや成長の過程等について、電話等で保育者に教えてもらう。

- 就学前施設で培ってきた力を発揮できる雰囲気をつくりましょう

5歳児の2～3月は、一人一人が自身の成長を振り返り、期待と自信を膨らませて小学校へ進学できるようにしています（今年度は、こうした内容を十分に経験できなかった児童が多数いることに留意する必要あり）。

そこで、就学前施設でどのような経験をしてきたかを把握するとともに、学級の中に就学前施設で培ってきた力を発揮できるような雰囲気をつくり出し、小学校でも自分の力でできるという成就感や達成感を味わわせるなど、児童一人一人が期待と自信を取り戻すプロセスをつくっていくことが重要です。

【例】 教室のロッカーに自分のランドセルや持ち物を片付ける場面では、「幼稚園や保育所では、どのように自分の鞆を片付けていましたか」などと、教員が意識的に問いかけを行うようにする。

- 弾力的な時間割を設定しましょう

スタートカリキュラムを、今年度の第1学年児童の実態や現状を踏まえたものとなるように見直しを行う際には、小学校生活を開始するに当たり、どのように児童を受け入れることが「児童にとってよいか」を考えながら、弾力的な時間割を作成し、具体的な指導の工夫を考えることが重要です。また、児童一人一人が安心感をもち、新しい人間関係を築いていくことをねらいとした活動や、生活科を中心とした学習活動（合科的・関連的な指導）を時間割に入れていくことも重要です。

【例】 朝の会において、幼児期に親しんできた遊びや活動などを行い、楽しい気持ちで1日がスタートできるようにする。
生活科を中心とした学習活動（合科的・関連的な指導）を行う際は、ゆったりとした時間の中で進めていくことを心掛けることで、児童一人一人が自分の思いや願いの実現に向けて主体的に学習できるようにする。

- 就学前施設の保育者との意見交換をしましょう

学校再開前に就学前施設へ連絡し、5歳児の2～3月の時期に大切にしている指導のポイント等の確認や見直しを行ったスタートカリキュラムについての意見交換等を行うことが重要です。

なお、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、現状では会議を開いて意見交換をすることは難しいため、電話や電子メールやファクシミリを活用するなどの工夫をして実施する必要があります。